

のうえ、基本構想のご決定をいただき、目まぐるしく変化する時代でも変わるこのないであろう、みなさんが大切にしている想いを込めて、「自然の中でわたしがくらしつながら挑戦できる おくたま」をまちの将来像といたしました。

本計画では、教育や福祉などの分野での整理ではなく、横断的な視点で計画をまとめており、「活性化」「持続化」「効率化」を3つのコンセプトとして位置づけております。

新たなものを創造することやそのために失敗を恐れず挑戦することを目指す「活性化」では、「生まれる・育む・挑む」や「創る・繋がる・広がる」また、「賑わう・満ちる・巡る」まちづくりを、今あるものを大事に守りながら、新たな光をあて継続することを目指す「持続化」では、「サステナブル・レジリエンス・

セーフティー」なまちづくりを、時には勇気をもってやめたり縮小することも重要と捉え、整理・統合し、無駄をはぶくことを目指す「効率化」では、「スマート・フラット・リンクゥーシア」するまちづくりを、具体的なまちの将来像としてまとめ、それぞれの施策の方向性を示しております。

また、人口減少やデジタル化などの課題に柔軟に対応していくための「奥多摩町デジタル田園都市構想総合戦略」及び新たな時代に対応した行政サービスの提供や健全な財政運営に取り組むための「第6次奥多摩町行政改革大綱」を「効率化」の観点からも第6期長期総合計画に包含することとしております。

なお、第5期長期総合計画では、計画策定時に評価指標を定めておりましたが、社会情勢や時代の変化により、指標として適さないものも出てきたことが

ら、第6期長期総合計画では、目まぐるしく変化する情勢に合わせ、柔軟に対応できるよう、固定化した評価指標を設定するのではなく、より職員の主体性を高めるため、計画とは別に設定を行うとともに、評価指標の形骸化を防ぐため、計画を評価していく外部有識者を含む評価委員会を立ち上げ、現状や進捗状況等を確認・分析しながら、評価を行ってまいります。

また、第6期長期総合計画のタイトル、キャッチフレーズにつきましては、長期総合計画審議会からご提言をいただき、奥多摩ならではの豊かな自然、人材、

多彩な文化や資源など、この町に根づく価値あるものに改めて目を向け、それらを最大限活用しながら、より良い未来に向けて、新たなリソースやアイデアを取り入れていく姿勢、また、住民一人ひとりがまちの未来をつくる大切なひと

り「わたし」であることを自覚できるよう想いを込めて、『OKUTAMA Re: design(リ:デザイン) わたしがつくる、わたしたちの奥多摩へ』と決定いたしました。

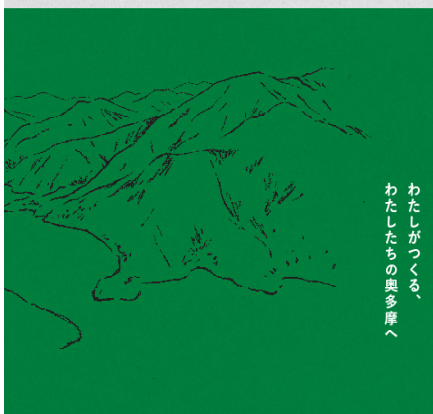
今後のまちづくりにおいては、歴史と伝統を大切にしながら、持続可能で魅力あふれる町を目指すとともに、これまでに得られた成果と経験を継承し、町の発展に向けて、地域の課題に対応した柔軟かつ効果的な取り組みを進めていく決意であります。

次に、令和7年度は、昭和30年に古里村、氷川町、

小河内村の三か町村が合併し、奥多摩町が誕生して70年という記念すべき節目の年となります。

この町制施行70周年を迎えるにあたり、町全体で祝いするため、各種既存事業を冠事業化として実施するほか、JR東日本八王子支社と連携した70周年記念臨時列車ツアーの実施や住民が主体となる事業を公募し、支援金を交付する事業、多摩大学による特別講座など、町民皆様に参加でき、思い出となる様々な記念事業の実施を予定するとともに、新たに、観光大使の任命を予定しております。

OKUTAMA Re: design



▲第6期奥多摩町長期総合計画